



ふねあいのひろば

第36号



ごあいさつ

会員の皆様におかれましては、平素より当協議会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、人とモノの移動、そして自由が制限され、海外との往来を通じた交流も縮小せざるをえない、思いがけない事態に直面いたしました。本来であれば、友好交流協定締結10周年を迎えたグアム準州から公式訪問団が来岡され、ともにこの記念の年を祝い、友好をさらに深める予定としていました。直接の触れ合いは残念ながら叶わなかったものの、ゲレロ知事から10周年を祝うメッセージをいただくとともに、市役所にてパネル展を開催し、これまでの交流に思いを巡らせる良い機会となりました。

隔年実施の国際サマーホームステイ in OKAYAMAは、岡山でのホームステイの代わりとして、初のオンラインによる交流を実施し、サンノゼ市、プロヴディフ市、洛陽市、富川市、新竹市、グアム準州の6つの都市・地域の中高生と岡山市の31名の中高生が交流プログラムを通じて、若者同士の交流を深めました。遠く離れていながらも、お互いの文化をともに触れあえる時間を過ごすことができました。

岡山市に暮らす外国人市民は近年増加していましたが、新型コロナウイルス感染症による入国制限もあり昨年は減少傾向となっているものの、ワクチン接種等により、集団免疫が獲得できれば、以前のように入国が再開され、再び外国人市民は増加に転じるものと予想されます。昨年の多文化共生の取組みとしては、岡山県国際交流協会と共催で「外国人と共に学ぶ災害時対応」研修会をオンラインで実施したほか、生活に密着した内容を外国人市民が学べる講座として「くらしの教室」を開催し、第一回目のテーマとして「ごみの出し方」を楽しみながら学んでいただきました。日本語教室をはじめとした語学講座は、感染対策を講じて実施しており、今年度も新しい生活様式を踏まえながら、多文化共生のまちづくりを推進してまいります。

また、今年は洛陽市との友好交流都市締結40周年の記念の年となります。今年度の国際交流の主要事業として、感染の状況を見ながらではありますが交流を進めてまいりますので、今後とも皆様方のより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



会長 松田 久

●洛陽市榮譽市民 榮譽証書 伝達式 (11月4日)

岡山市と洛陽市との交流に多大な貢献を果たしてこられた、片山浩子様と佐藤安男様の2名に対して洛陽市から「洛陽市榮譽市民」の称号が授与され、岡山市に届いた「榮譽証書」を大森雅夫岡山市長から伝達しました。

本協議会の元理事でもある片山浩子様は長年にわたり岡山市日中友好協会の会長を務めてこられ、幅広い分野で岡山市と洛陽市の交流に貢献されました。

佐藤安男様は洛陽市博物館で個展を開催するなど、絵画等を通じて文化芸術の分野における岡山市と洛陽市の交流に貢献されました。

まことに残念なことではありますが、佐藤安男様は令和2年10月21日にご逝去されました。故人が岡山市と洛陽市との友好都市交流に果たされた多大な貢献に深く感謝するとともに、その功績を偲び心からご冥福をお祈りいたします。伝達式にはご子息の佐藤拓史様が代理で出席されました。



かたやまひろこ
片山浩子様



集合写真



さとうやすお
佐藤安男様の写真と共に
ご子息 佐藤拓史様

●洛陽牡丹文化節ビデオメッセージ (4月10日)

洛陽市が第38回洛陽牡丹文化節の開幕の様子をインターネットで中継を行うにあたり、洛陽市からの依頼を受けて、岡山市長から祝福と激励のビデオメッセージを贈りました。



第38回中国洛陽牡丹文化節開幕



岡山市長から挨拶するシーン



「洛陽へようこそ」

●洛陽市からマスクが届きました (令和2年3月30日)

新型コロナウイルス感染拡大防止を支援するため令和2年2月に洛陽市に贈ったマスクの返礼として、令和2年3月30日に「住む場所はちがっても春の訪れをともに待っている」というメッセージが箱に貼られたマスク3万枚が洛陽市から届きました。マスクは市内の医療機関や、高齢者福祉施設に配布しました。



メッセージが貼られたマスクの箱



マスク到着の様子



洛陽市から寄贈されたマスク

子どもオンライン 国際交流

(2月6日)

岡山市はこれまで、子ども海外派遣事業（派遣）及び国際サマーホームステイ（受入）を通じて、国際友好交流都市・地域の中高校生と交流を深めてきました。

令和2年度は国際サマーホームステイ事業で国際友好交流都市・地域の中高校生を受け入れる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてとなる子どもオンライン国際交流事業を実施しました。

子どもオンライン国際交流事業は、岡山市内に在住あるいは通学する中高生と国際友好交流都市・地域の中高校生がオンラインを通してふれあうことで、子どもたちの国際的視野を広めるとともに、多様な文化への理解と国際交流を図る事業です。

今回は、岡山の中高校生31名がサンノゼ市（米国）、プロヴディフ市（ブルガリア）、洛陽市（中国）、富川市（韓国）、新竹市（台湾）、グアム準州（米国）の国際友好交流都市・地域の中高校生47名と交流しました。

交流では、各都市の紹介やグループトーク、各都市から出し物を披露して盛り上がりました。また、岡山市・グアム準州友好交流協定締結10周年を記念して、グアム準州知事より子どもたちに向けてビデオメッセージが贈られました。

サンノゼ市7名
グアム準州8名との交流

(岡山市8名)



岡山市の紹介

富川市8名
との交流

(岡山市7名)



手拍子で富川市の出し物を鑑賞

洛陽市8名
との交流

(岡山市8名)



お揃いの法被を着てうらじゃを披露

プロヴディフ市8名
新竹市8名との交流

(岡山市8名)



グループトーク

※プロヴディフ市参加者8名のうち1名はインターネットの不具合のためプロヴディフ市の出し物にのみ出演

岡山市の
参加者の感想
(一部抜粋)

- ・英語力は気にせず、どんどん話しかけることが重要だと学びました。(サンノゼ市・グアム準州との交流参加者)
- ・今は海外へ行けないけど、オンラインを通じて、交流できるということを知り、今後も同じような行事があれば積極的に参加したいです。(富川市との交流参加者)
- ・今回の交流は大きな自信に繋がりました。独学で勉強するだけでなく、実際に話をしたり、自分の言葉で伝えたりすることの大切さを学びました。(洛陽市との交流参加者)
- ・交流イベント後も交流相手と頻りに連絡を取り、交流を続けられていることが何よりもよかったです。(プロヴディフ市・新竹市との交流参加者)